

東京大学本郷キャンパス
法文2号館2階1番大教室

2011年10月15日(土)

14時-15時30分



東京大学文学部公開講座 第1回 引用と変奏 —— 日本美術の作られ方

既にある製品の加工・改良は、日本のモノ作りの得意とするところ。平安・鎌倉時代の絵巻、江戸時代の屏風絵・浮世絵、近代の油絵などを例に、既成の形を引用し、それを変奏して、新しい魅力的なイメージが作られる様子を論ずる。

講師：佐藤康宏教授（美術史学）

入場無料

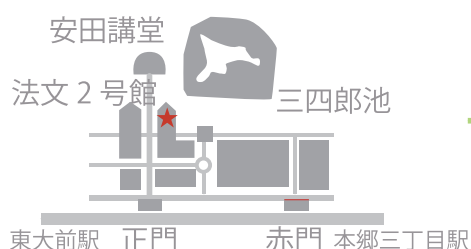
事前申し込みの必要はありません。

満席の場合、入れませんのでご了承ください。

主催：東京大学文学部

問い合わせ先：文学部総務チーム

e-mail：shomu@l.u-tokyo.ac.jp



○第1回公開講座 講師紹介：佐藤康宏教授（HP から）

日本美術史、特に絵画史を専攻する。授業では仏像・仏画から近代絵画まで扱うし、文化庁美術工芸課勤務が長かったので日本美術史全般にひととおりの関心があるが、主たる研究対象は、(1) 室町時代末から江戸時代初めにかけての風俗画、(2) 南画や若冲・蕭白といった画家を中心とする江戸時代絵画、の2点。様式分析と文献史料の解釈によって、絵画の中にどのような意味の構造があるか、またそれが社会のいかなる状況と関連して作られ、どう変化したかを明らかにすることに興味を持つ。編集を担当した『講座日本美術史』全6巻（東京大学出版会、2005年）は、日本美術について考えるおもしろさを多くの人に伝えたいと願う企画で、平安時代の絵巻や岸田劉生についての論文も執筆している。著書に『若冲・蕭白』（小学館、1991年）、『湯女図』（平凡社、1993年）、『歌麿と写楽』（至文堂、1996年）、『浦上玉堂』（新潮社、1997年）、『もっと知りたい伊藤若冲』（東京美術、2006年）、『祭礼図』（至文堂、2006年）、『日本美術史』（放送大学教育振興会、2008年）など。

○今後のご案内（詳細は決まり次第、ホームページで随時お知らせいたします）

・ホームカミングディ 日時 10月29日（土） 場所 法文2号館1番大教室 15:30 -

講演 「文学の明日を考える」

講師 菅野昭正名誉教授（フランス文学）

シンポジウム 「現代文学における「私」をめぐって」

パネリスト 菅野昭正（フランス文学）、安藤宏（日本文学）、柴田元幸（現代文芸論、英米文学）、野崎歓（フランス文学）

・オープンキャンパス 日時 12月23日（金） 場所 法文2号館1番大教室

講義 「ことばで伝える／ことばで考える／ことばで感じる」

講師 佐藤健二教授（社会学） 10:30 -

講義 「日本人の自画像」

講師 菅野覚明教授（倫理学） 12:00 -

・文学部公開講座 第2回 日時 2012年5月12日（土） 場所 法文2号館1番大教室

講義 「縄文人と動物たち」

講師 設楽博己教授（考古学）

縄文人は動物を土で形づくった。最も多いのはイノシシである。かれらが好んで食べた陸獣はイノシシとシカだが、造形品にはシカが少ない。一方、弥生時代になると、土器や銅鐸にシカが描かれるようになり、イノシシは忘れ去られる。この逆転の理由は何だろうか。

○ご寄付のお願い

文学部・人文社会系研究科では、これまでに行われていた常呂公開講座（北海道北見市）に加え、本年度から本郷キャンパスにおいても公開講座を開催します。これは、文学部・人文社会系研究科において行われている教育及び研究の成果を積極的に公開していくとともに、社会連携をより一層深めることを目的としています。文学部・人文社会系研究科では思想、歴史、言語、行動に関して多様な教育・研究を行い、その中には現代社会における人間の生と死をめぐる諸問題など、学際的な挑戦を行っている分野も多々あります。また、次世代人文社会学育成プログラムでは、多くの若手研究者を海外へ派遣し、教育研究活動の活性化が図られました。これらの活動をつづけるためには、外部からの資金が不可欠であり、これまで以上に皆様のご支援を必要としています。額の大小にかかわらず、個人・企業の皆様からのご寄付を得られれば幸いです。いただきましたお志については、文学部・人文社会系の教育・研究の発展のために活用させていただきます。そのために文学部・人文社会系研究科の教職員一同は努力し続ける所存です。

問合せ先： 文学部・人文社会系事務長 Tel 03-5841-3702 財務・研究支援チーム主査 Tel 03-5841-3725